

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271900239		
法人名	特定非営利活動法人弥栄発生活りハビリネット		
事業所名	グループホームふじいさんち		
所在地	島根県浜田市弥栄町92番地		
自己評価作成日	平成23年11月25日	評価結果市町村受理日	平成23年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①一人ひとり、利用者の方の個性を大切に、尊厳を守ること及びその時々思いを汲み取ることができるように努めている。②常に畑に収穫できる野菜があるように整備している。玄関前の植木鉢に花等枯れたままにならないように利用者の方と手入れをしている。③手仕事に力を入れている。④スタッフ間のチームワーク作りに努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=32
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 応援団		
所在地	島根県浜田市相生町3948-2 相生塚田ビル1階103号		
訪問調査日	平成23年12月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建て民家を改装した事業所であり、バリアフリーではないが、利用者が家庭的な雰囲気の中で安心・安全に生活ができるよう職員は利用者寄り添い、生活を支えている。住み慣れた地域で普通に暮らすことができるよう10年前の設立時から地域密着を理念に掲げ、法人として地域の福祉向上の為、健康セミナーや介護なんでも相談を実施している。
介護計画が利用者の生活の支えになるよう考え、介護計画が利用者にとってどのように機能するのかを話し合い、一人ひとりの現状に合った介護計画となるようセンター方式を取り組んでいる。毎日の食事では利用者全員が役割も持って関わられるよう支援し、野菜は事業所の畑で収穫した物や近所の方から頂いたものなどを地元産にこだわり、提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	権利擁護の指針(コンプライアンスルール)をスタッフ全員に配布し、又事業所内に掲示している。その理念を共有し、いつも心にとめるようにし、実践につなげている。	開設当時からの地域密着サービスの意義を踏まえた理念となっている。職員は理念を共有し、日々のサービスの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に運営推進委員になっていただき、日常的な交流を模索している。	地域の保育園児の来所や子ども神楽の来所など地域の方に事業所に来てもらい、交流を行う取り組みに力を入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の事業で健康セミナーを年4回開催し、認知症についての講演を盛り込んでいる。又、地域で開催される健康福祉のつどい等に写真や作品の展示を行い理解を求めている。22年には相談事業(認知症なんでも相談)も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は各月に開催し、左記の報告を欠かさず行い委員さん達からは意見・アドバイスをいただき、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回必ず行い、定期的な運営推進会議となっている。事業所の近況や災害対策の避難訓練で協力体制作りを話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	内部研修の講師の紹介をしていただいたり、災害避難マニュアルの作成について協力してもらっている。また、運営推進会議への出席、及び日頃の相談にも応じてもらっている。	担当者は顔なじみの地域の方であり、相談しやすい関係にある。事業所の問題を一緒に考えてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は行っていないが、赤外線センサーによるドアチャイムは設置している。居室ベットの足元にセンサーの必要な入居者についてはセンサーマットを設置している。いずれも入居者の安全性を配慮したものでご家族の同意を得ているがそれ以外は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所独自のコンプライアンスルールの中でも身体拘束をしないケアを上げ、職員全員が身体拘束をしないケアを良く理解し、実践している。やむ終えずセンサーマットを使用する場合も家族に身体拘束を目的とした使用とならないよう約束し、同意を頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一昨年、管理者が虐待防止会議に出席し、左記の法等を学び、事業所内では注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフが昨年研修会に参加し、研修内容の報告を行っている。実際に、浜田市やご家族と話し合って成年後見制度の利用を推進し、実現した入居者がおられる。又、現在、自立支援事業の利用をされている入居者もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時には十分な説明を行い、理解・納得を得られるように努力している。又、改定時には家族会で説明した上で、理解を求め、更に個人個人に納得されるよう再度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見交換やアンケート調査などの機会を設け運営に反映させている。また、家族の代表は委員として運営推進会議出席し、運営に関しても様々な意見を述べられているので、参考にさせていただいている。	家族とはお願いしたり、されたりという関係づくりを行い、なんでも言いやすい関係にある。利用者・家族の思いや要望は日々のケアに生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会(全員参加)を開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。又、随時スタッフからの提案があった時には検討し運営に反映させるように努力している。	日常的な話し合いの中でも職員の要望は大切にしている。職員は管理者に対して意見を言いやすく、運営に職員意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現時点の運営の厳しさはあるが、スタッフの希望を聞いて勤務表を作成し、労働時間の調整をしたり、やりがいが持てるように役割・担当を設け条件を整備するように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保に努め、スタッフ一人ひとりの資質向上とスタッフ間のチームワークの強化に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は委員として他のグループホームの運営推進会議に出席している。スタッフは地域密着部会に交替で参加し、相互訪問・交流の機会を利用し、様々な情報を得ることでサービスの質の向上につなげていく努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接を必ず行い、ご本人の話を傾聴する中で、不安なことや困っていること、要望等の把握に努め、安心して入居していただけるよう初期からの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と面接するのと同様にご家族とも必ず面会の機会を設け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係者からの意見を聞いたり、ケアマネジャーからの情報収集、ご本人とご家族の話されることの内容を吟味して、最良の支援を考え対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が意見や感想を言えるように雰囲気づくりをしたり、物事を逆に教えてもらったりしながら関係を築き、生活支援ができるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にケアプランを立てるように努力している。支援の協力者として、入居者が求められた時にはご家族に電話をかけて話を聞いてもらうこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の意向、ご本人の意向が一致しない場合は、大切にしてきた人や場所との関係を途切れないように支援するのは難しく、ストレスが最小限になるよう精神的な支援ができるように努めている。	利用者の人間関係や社会とのつながりなどの把握を行い、その関係を断ち切らない支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブルがあっても孤立させないように支援し、支え合いのできるような場面をつくるように努力している。家の中だけでは難しい時には外出するなどして、一緒に暮らしているという実感をもっといただくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、手紙や電話連絡をくださるご家族がおられ、その関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向、ニーズの把握に努め、ケアプランを作成し取り組んでいる。かなわぬ希望もあり、その場合はできるだけ話を聞き、ストレスが緩和されるように支援している。	家族から情報を収集し、日頃の会話や関わり・表情などから思いや意向を把握し、個人記録に残している。思いや意向はケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時点でのケアマネージャーからの情報収集に加えて、ご本人や家族との面接時に情報を得ている。また、日々の生活支援の中でご本人の話からも生活歴の端々を伺うことができる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間での情報交換や日々の個人生活記録から現状の把握に努め、支援するスタッフが共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの情報やスタッフの気付きをもとにスタッフ全員での会議(月1~2回のスタッフ会)を開催し、ケアプランの見直しや課題について話し合いをし、現状に即した計画を共有するように努めている。	年に2回は家族参加のモニタリングと介護計画への要望を聞き、プランを作成している。介護計画は医療面の支援・日常行動面の支援・個別の支援の3つの面から作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、受診ノート、日誌等に必要事項をまとめ、スタッフ間で情報を共有しながら実践に活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な衣類や家族が対応できないときの受診の付き添い等柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会が行っている事業の把握や町や公民館、集落等の地域行事の把握に努め、豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診に於いても緊急受診に於いてもご家族、及び医療機関と連携をとり、情報提供を行い、適切な医療が受けられるように支援している。	家族の希望するかかりつけ医に願っている。受診は原則家族の方が行い、事業所の様子を伝えたり、受診結果を聞き、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内には看護職はいないが、医療機関の看護師に情報提供して相談することはよくある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族をまじえて病院関係者との情報交換や相談の場をもつように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族との十分な話し合いを経て、事業所独自の評価表に基づきグループホームでの生活が困難になった場合の方針を決めている。退居が決定しても他の適切な施設等に移られるように関係者と共に支援に取り組むようにしている。	建物の構造上重度化した場合のケアが難しく、入居の時に重度化による退所についての説明を行っている。最終的には利用者と家族が納得の行く支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回は応急手当等の講習会をして実践力を身に付けられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回は自然災害を想定した避難訓練を行っている。年2回の火災に対する避難訓練では地域(近隣)の方の協力を得て行っている。	大雨による災害が想定される地域のため、災害対策には力を入れている。大雨の時や火災を想定して避難訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人ひとりが、親しみのある言葉かけやくださった表現をしても尊厳を損ねないように意識し、又、排泄時などさりげなくカーテンやドアを閉めるようにしプライバシーに配慮するよう気をつけている。	利用者の人権を尊重して丁寧な対応を行っている。静かでさりげないケアを行い、一人ひとりを大切にされたケアに力を入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が日々の活動を選択されるよう支援したり、食べたいものや欲しい物を言うように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調や気分を考慮して言葉かけを行ない、意向を聴いたり、行動の様子をみてご本人のペースを判断し、その状態に応じて支援を行なうように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を使われる方の見守りや整髪に一部介助等を行い身だしなみやおしゃれの支援をしている。又、必要な時に地域の美容院へ行かれるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かしながら、スタッフと一緒に食事の下ごしらえや盛り付け等ができるように支援している。食事は団欒の場となるように働きかけ、片付け(食器洗いや食器拭き)もスタッフと一緒にやっている。	介護度が上がったたり、麻痺があっても包丁を持っての食事準備を支援している。食材は地元のものも多く取り入れ、畑で取れたものや近所の方からの頂き物なども食卓の彩りとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	減量の必要な方の主食・副職の調整や食欲のない方の料理の工夫等一人ひとりの状態を考慮して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの能力に応じて、声かけ、見守り、一部介助、全介助と方法を変えて口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや能力を把握して、できそうな方から順に、日中は紙パンツを使用せず、布パンツとパットで対応する取り組みを行っている。	オムツの使用を減らすよう職員間で話し合いをしながらトイレでの排泄を支援している。パットや紙おむつは本人が使いやすいものとなるよう見直しもしている。	現在、日中はオムツの使用を控える取り組みを行っているが今後も継続し、一人でも多くの利用者のオムツの使用が減るよう期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服でのコントロール以外にも水・牛乳の活用や食事内容の工夫を行ない、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね1日おきには入浴できるように配慮し、個々にそったゆったりとした支援に努めている。時間帯については、夕食前の2時間に決めているが、必要な時には柔軟な対応をしている。	夕方入浴が定着している。入浴中は1対1の関わりの時間として大切に、じっくりとお話を聞いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや居室での休息は個々の状況に応じて支援している。安眠できるように寝具を整えたり、照明を配慮したり、室温の調節に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診ノートを一人ひとりもうけ、左記の内容について情報収集し漏れが内容にしている。また、スタッフ間で気づいたことを情報交換しながら服薬の支援を症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の片づけの時の役割や収穫物の処理、洗濯物の処理等生活歴や個々人の力を活かした活動を支援している。又、歌会やゲーム等楽しみ場を設け、気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって、散歩等を支援したり、定期的な地域の野菜市に入居者の方と一緒に出かけたりしている。個々人のニーズを満たす買い物、行きたい場所への外出はご家族と相談の上、ケアプランに挙げて実施している。	全員での外出がなかなか難しく、外出する機会が頻繁には確保できないのが悩みだが、個別に戸外へ出かける機会は意図的に作り、支援している。	立地的・環境的に外出することが難しいところもあるが、外出を利用者の気分転換の機会ととらえ少しでも機会が増えるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力やご家族の要望を考慮している。自立支援事業を利用されている入居者もおられる。現在、お金を所持されている入居者はおられないが、必要な買い物等があれば家族からの預り金でご本人が使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの手紙の返事を書かれたり、年賀状を出されたり、不安なくできるように支援している。電話をかけられるときもご家族の意向に配慮しながら、ご本人の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光等まぶしくないように配慮し、最適な温度や湿度を保てるように心がけ、居間や食堂等には季節の花や入居者の作品(塗り絵等)を飾ったりしている。	民家を使用した事業所であり、職員と利用者が和やかに過ごし、家庭的な雰囲気でも過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファの配置等狭い空間でできる限りの工夫をしているが、居場所をめぐって入居者の方同士のトラブルや混乱があったりすることも珍しくなく、スタッフがケースバイケースで対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物を持参され配置されている居室もあるが、物が少ないほうが混乱なく過ごせる入居者の方もおられるので、個々人の状況によって工夫するように努めている。	民家改造の建物であり、部屋の造りがさまざまである。部屋自体が家庭的であり、利用者が過ごし易いように配置を考えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室扉の横に名前を書いたりやトイレの場所を表示してわかりやすいように工夫している。個々人の状況に応じて、立ち上がり時に滑らないよう足元に滑り止めマットを置く等の工夫をしている。		